



12

仙人

畫

師宣画  
全

元禄二年

子 4  
6350



三丁不足

<2016-12>

# 異形仙人伝

凡傳傳入り傳はるるその身形たえと  
 名をいふ形とありし方命とありし  
 ありしひら方年ありしハ形の年みは較  
 百ひとくみ海を思おもふありし  
 仙人た形ありしとて名をいふありし  
 と今もいふを傳はるるいふやせんあつ  
 うりお身く作の形はるる傳はるる  
 ぬ姿のあらはありしとていふありし  
 命のめでたかりしとていふありし



八

○季子頌のまゝに  
 長吉系唐詩の  
 ありてカあして  
 博學あり詩を  
 しくす韓愈も  
 とあましくはれ  
 し頃業とありて  
 せむらひゆる韓愈  
 こんしてゆくそのら  
 糸乳と云れり  
 のりちんあり  
 賀一封のちを  
 あんり頃業を  
 見れん天帝を  
 めとて終り  
 たりて天よかり  
 人ししくもと  
 なる



○刑和璞い  
 づのあの人を  
 りすとあはれ  
 らいこの備り  
 くれとわりの  
 心と美し  
 術とあり又い  
 暴元とありて  
 治と唐の明皇  
 開元十二年  
 都よありまの  
 名譽とわりの  
 和璞のりまの  
 ゆくわとあ  
 せりり



○太玄女姓の顔  
 名和ありし書  
 よとくして他  
 ぐさ道ち  
 ぶのしあま入  
 んぬさき  
 寒の時ひんを  
 ちあもれん  
 ち親色か  
 杖さくおと  
 さげと右ひけ  
 て四よ入を  
 ありて中よ合  
 程のあうみり  
 しくり終よま  
 よのわりり



○蔡女仙の  
 ちとらよあの人  
 ありてひげあは  
 よのぬいので  
 ちる何あしち  
 父事りてちるま  
 一はのとぬべ  
 ちよまあま  
 ちまうとぬけ  
 ちん老父事り  
 て茶女とよ  
 けちるまうよ  
 のりていげい  
 ちよまびとら  
 ちるの奇異の  
 けいしとあり



○氏志士ハい  
 つまのふれん  
 りつとと志士  
 来賓の氏禪  
 のは修約をか  
 て秋供よお  
 ひく時よき布  
 幕と栲として  
 約とみせ里市  
 まつりて人尺  
 て智ひふせり  
 宋の建炎の初  
 一白晴よひ  
 うひて天よの  
 りつり

○子英ハ舒卿  
 の人ありて水  
 入る魚とて  
 赤き鯉のり  
 毛と池よやま  
 り一年長一丈  
 のまり角とつた  
 さつてり子英  
 毛と拜と魚の  
 いとくえんとい  
 うひよまねり  
 今日天よらん  
 ちよあつ子英  
 魚よのりてま  
 ら後年くまね  
 吳中よ子英が  
 祠のり



○東王公ハ玉女  
 仙人とひりま  
 くのをよ東王  
 口とのうけて  
 光とともつ今  
 の電をまかり  
 玉女ハよから  
 そのひりとか  
 りまゝ電光  
 とあり



○馬師皇ハ黃  
 帝の時人あり  
 馬を治する醫  
 あり馬の形氣  
 死生を知り治す  
 ことすからんも  
 あり時終りて  
 是よりひりて  
 取とさればと  
 ひく師皇が云  
 け病を其に  
 ひの針とて  
 口中ハ甘草湯  
 とのまひきん  
 則の乾師皇  
 を負てさると云



○木公の君の候  
 のぎさハ君のとき  
 天下の君のとき  
 あつらひのとき  
 陽の化のとき  
 海の上のとき  
 生るあはれ仙の  
 道とあはれ仙の  
 の根えとあはれ  
 東王とあはれ  
 後世仙とあはれ  
 女のあはれと  
 一歩よとあはれ  
 一歩よとあはれ



○大玄女姓ハ  
 名ハ和ハ  
 夫とあはれ  
 後道とあはれ  
 あはれとあはれ  
 あはれとあはれ  
 さびとあはれ  
 ひとあはれ  
 木とあはれ  
 色とあはれ  
 あはれとあはれ  
 けとあはれ  
 けとあはれ  
 つとあはれ  
 のはとあはれ  
 衆通の妙とあはれ  
 のりよハ天子の  
 のりよハ天子の



○劉晨阮肇二人  
 人業とりに天竺  
 山よのちふふつふ  
 とくんと桃とあて  
 かくと山下ひの  
 あれとのそつひも  
 つまらうあまは  
 いま女二人のりて劉  
 阮の二人のよと  
 家よるひひりま  
 全派とらりてあ  
 わりてぬかりゆつ  
 る十日余あり二人  
 つとぬひしてあ  
 よゆりえれんまどふ  
 七世ありまたり  
 晋の大康八年の



○封衛ハ陝西の  
 人あり幼かり通  
 とまぶ山よ入て茶  
 とん黄運と概ち  
 月四年あてり  
 ゆり病えとんて  
 竹筒の茶とあ  
 とつにえ前病  
 と治と魏の武帝  
 めて養けの大  
 畧とらひ孫へ  
 衛ガ云思慮と喊  
 して嗜飲とん  
 ますのそりて  
 らんたつわつひ  
 一の養氣衛生經  
 救十卷あり



ヘゲツ  
 上二元  
 ヨク  
 合



○西王母ハ後漢の元封元年  
 武帝の殿ま  
 まの桃をちと  
 ちくそのころを  
 みくたにゆり  
 これとみはよふ  
 色はよをめで  
 らひのちのめく  
 ちりてらけき  
 ころそのまや  
 らくくをくもて  
 ちりてらけきの  
 ね



○徐寧の海鹽  
 の人一目向衣  
 の人事の門よ  
 へ寧杖と一  
 叱せれんまゐん  
 ち自危くあつ  
 後石崎あり  
 とりて他とあつ  
 兄弟往て乞  
 とらぬを寧  
 山の上木よわ  
 うらぬを  
 おろして見れ  
 寧がうたた  
 りあり



王子喬ハ  
 周の靈王乃  
 太子晋多り  
 筆を吹て鳳  
 鳴とあり道人  
 浮丘公と晋と  
 言ふよのあり  
 三十余年ありて  
 知く云七月七日  
 我を待へし  
 後白と露よ  
 のりて顔よ  
 とあり後よの  
 下は祠とあり  
 とあり



○玄解ハ  
 の西のく  
 ぬとあり唐の  
 憲宗の時  
 玄解とあり  
 先生とあり  
 玄解とあり  
 靈とあり  
 あり一名  
 二六合系  
 萬根藤  
 かくもと  
 ありとあり  
 玄解黄馬  
 ありとあり  
 ありとあり



○太真王夫人の  
 西王母のひまの  
 玉の危あり一柱  
 の琴とらんを  
 時の西のけご  
 のあつりま  
 りてしと  
 まらんと  
 するち王  
 夫人のや  
 龍のありて  
 四海よ  
 ありしとあり



○赤松子ハ神  
 農の時の三人  
 の師あり永と  
 服して神農よ  
 かゆくと火よ  
 入るとちげと  
 つつと西王母の  
 石室の中居  
 て凡ありと  
 せくとあゆと  
 ゆるとあゆと  
 人界のあゆ  
 のあゆと



○相聞へつて  
 のあつては  
 るとちひ茅山  
 二童ひとつて  
 ゆき霧のりて  
 色とりくりて  
 色よあつて  
 とう人きま  
 りぬ人まつ  
 師方の御家  
 な一よりほ  
 つまのりて  
 けりりる  
 り



○莊伯微六僕の  
 人ありあしと道と  
 とのあつてみり  
 りとつ方とあ  
 ぞ目の入とれよ  
 ああしつひく  
 目とぬるに崑崙  
 山をら八海を  
 三十年とあ  
 えうんあゆ人  
 あつてさんあ  
 のあつとあ  
 て合を服して  
 人ときりり



○伯道道恭ハ  
 皆は美の人あり  
 玉座ふまへて道  
 と函のあやうに  
 余年神丹と合  
 せし二人とも  
 毛と服とれん  
 記はとゆるひ  
 りとのく白  
 麻よらりの  
 雲中とさう  
 りみらとあ  
 ひらこーえ  
 ともいれく  
 せよいり



○彰宗あざか  
 信定年二十あり  
 仙を林中仙人よ  
 由あよまよま  
 山よ入甚まうた  
 長らりあはさや  
 少色て死き久し  
 つかあまのせい  
 守一の道とあ  
 ひつまく妙なり  
 それよりあま  
 くれもあられど  
 又久の雲をま  
 りひてやうの死  
 せかすあまの  
 おしてくらま  
 つらりなり



○ 籥 棊 八 漢 の  
 未 の 人 多 り 道  
 と 天 平 山 云  
 小 の 云 云 云 云  
 仙 術 と 云 云 云  
 子 の 云 云 云 云  
 云 云 云 云 云 乃  
 二 多 の 云 云 云 乃  
 け 人 よ 云 云 云 乃  
 乃 り 碧 霄 真 人  
 と 云 云 云 云 道  
 云 云 云 云 云 七  
 白 月 ふ じ じ 七  
 天 下 の 云 云 云 乃



○ 苗 統 八 唐 の  
 初 の 人 多 り 道  
 統 と 云 云 云 乃  
 道 道 と 云 云 云 乃  
 人 と 云 云 云 乃  
 の 統 云 云 云 乃  
 南 の 云 云 云 乃  
 人 の 云 云 云 乃  
 統 石 ま 乃 乃 乃  
 何 り 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 苗 統  
 の 乃 乃 乃 乃  
 一 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃



○陳南字ハ  
南木博羅の  
人なり常は  
とみどして一日  
より夕暮る百  
里のつとた三山  
の大衆と遊る  
よあおくあて  
行つたのころぞ  
陳南と名をう  
るくあてを  
まらるる自也  
とあり



○羅真人ハ  
黄梅と子西の  
人なりあつた  
老人ありこれハ  
病就かり移る  
くハ事と相ふ  
好く子羅真  
素と何子のり  
あてとくは  
とあひ好つて  
純なり羅真  
と員てといふ  
げゆよけ池と  
波は地といふ  
今も何りとう  
や



○王延平ゆづ  
 とふ所の人あり  
 九女ありなを  
 このとて仙術と  
 なるも周武帝  
 をもこまつてしむ  
 王延平ひさし  
 てあまゆひひや  
 虎ありて王延  
 とまのつものら  
 どのの文書し  
 て仙都觀のま  
 ごとてこれを  
 そうけうせれ  
 たりとあり



○陶弘景はみ  
 中うの人あり  
 けけりあつて  
 道まそらあき  
 婦く可貴也  
 小圃ぞのり  
 夕あ一守あ  
 まれどあつた  
 とんつのみま  
 あせてまねを  
 えては松風のひ  
 ひまをまて  
 らびてあ  
 大同二年辛酉年  
 八十又都交つ  
 しく人れと





○馬鉦の軍海の  
 人なり仙のあつ  
 とわらふまゝ二十  
 よ秘人のまゝれ  
 身舞してまら  
 うまのひとれ  
 こころまのけれ  
 中のえれは他人  
 雲ののてき  
 仙童玉女を  
 ひく茶にまら  
 鉦ひひひん  
 若くはまれ  
 とまらひひ  
 ひひひひ



○王道真のま  
 白雲の中り  
 白雲の  
 中りつと  
 どのまはれ  
 百人の好様の  
 道真の  
 まは雲中り  
 られお頭り  
 りのまはれ  
 られれてゆ  
 くり



○江妃の二女、  
 いづれの所の  
 人といふを  
 あらびては  
 といふ人か  
 の所よあそ  
 二女よ何れ  
 の明朱と二  
 女何れと  
 江妃の二女  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か



いづれの所  
 人といふを  
 あらびては  
 といふ人か  
 の所よあそ  
 二女よ何れ  
 の明朱と二  
 女何れと  
 江妃の二女  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か  
 といふ人か





右山房形仙入院之書河師宣  
之書和信師書集之書多  
之書首書之加之移之書也

元禄二己年正月吉日

大傳馬所三所月

轉形屋用板

